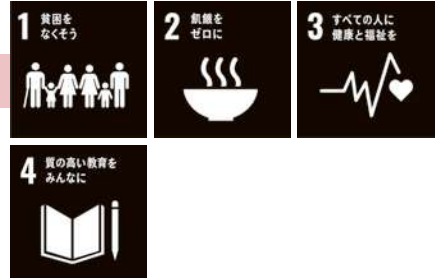


基本施策3

健やかに生きていくための身体の育成

施策 (1) 健康教育・食育の推進

現状と課題



4章

「基本施策」と「施策」 基本施策3 健やかに生きていくための身体の育成

社会の環境変化や、家庭におけるライフスタイルの多様化等に伴い、子どもたちの食事、運動、睡眠等の基本的な生活習慣の確立が難しくなっています。アレルギー疾患や心の健康に課題を抱える子どもの増加、性や薬物、感染症に関する問題等、子どもたちの健康課題が多様化しています。また、がんについては、国民的課題として重要視され、学校におけるがん教育の推進が求められています。



このような現状の中、子どもたちが発達段階に応じて心身の発育・発達と健康等に関する知識を習得し、生涯をとおして心身の健康を自ら管理する力を身に付けることが必要です。そこで学校保健委員会^(※1)を活用したり、家庭・関係機関と連携したりしながら学校の教育活動全体で健康教育に取り組むことが大切です。



食育では、伊勢市食育推進計画に基づき総合的かつ計画的に取組を進めていますが、食を取り巻く環境が変化し、子どもたちの食生活にも不規則な食生活や朝食欠食、偏った栄養摂取等さまざまな課題がみられます。

子どもたちが健やかに生きていくためには、健全で規則正しい食生活を送ることが重要です。子どもたちが健全な食生活を実践するためには、食に関する正しい知識に基づいて自ら判断し、実践していく能力を身に付けることが必要です。また、食事の重要性、感謝の心、地域の自然、文化や産業等に関する理解を深めるために学校給食を食育の生きた教材として活用することが求められています。

学校教育活動全体を通じて食育に取り組むとともに、家庭・地域と連携した取組が必要となります。

※1：学校における健康の問題を研究協議し、健康づくりを推進する校内組織

主な取組

<p>健康教育の充実</p>	<p>「学校保健計画」に基づき、生涯を通じて心身ともに健康で安全な生活を送るための基礎を培う教育の推進を図ります。</p> <p>また、喫煙、飲酒、薬物乱用等と健康の関わりについての理解を深め、心身ともに健康な体づくりの教育を進めます。</p> <p>感染症についても、適切な知識を基に、発達段階に応じ感染症の予防について理解し、自己の生活を適切に管理し、改善していく力をつけるよう教育の充実を図ります。</p>
<p>関係機関との連携</p>	<p>子どもたちの健康課題を解決するため、学校医・学校歯科医・学校薬剤師と連携した学校保健委員会の活用、家庭や関係機関等との連携を進めます。</p>
<p>食に関する指導の推進</p>	<p>各学校において、食に関する指導計画を作成し、特色ある食に関する指導を進めます。全小中学校で、栄養教諭等の専門性を生かしながら、学校教育活動全体で取り組む食育の推進を図るとともに、家庭・地域と連携した食育の取組を推進します。</p>
<p>学校給食の充実</p>	<p>関係部署等と連携して学校給食への地場産物の活用促進を図るとともに、旬の食材、郷土食や行事食を取り入れ、望ましい食生活、食料の生産や地域文化等に対する関心と理解を深める食育を推進します。</p> <p>安全・安心な学校給食の実施を通して、適切な栄養の摂取がなされ、子どもたちの心身の健康の保持増進が図れるよう努めるとともに、アレルギー疾患を有する子どもたちの実態を把握し、安全性を最優先した給食対応等を行います。</p>

数値目標

成果指標	令和 元年度	令和 2年度	令和 8年度	備考
<p>学校医・学校歯科医・学校薬剤師と連携した学校保健委員会を開催している学校の割合^(※1)</p>	<p>100%</p> <p>90.0%</p>	<p>87.0%</p> <p>70.0%</p>	<p>100%</p> <p>100%</p>	<p>小学校</p> <p>中学校</p>

毎日朝食を食べている児童生徒の割合 ^(※2)	96.1%	92.9%	98.0%	小学校
	93.9%	90.9%	95.0%	中学校
学校給食における地場産物を使用した割合 ^(※3)	47.5%	38.2%	48.0%	

- ※1：「学校保健委員会の設置状況等調査」(三重県教育委員会)において「参加者に学校医・学校歯科医・学校薬剤師が含まれた学校保健委員会を開催した」と回答した伊勢市の小中学校の割合。
- ※2：「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)において「朝食を毎日食べている」という質問に対して、肯定的な回答をした伊勢市の児童生徒の割合。
- ※3：三重県産の食材を地場産物とし、食材数を基本に計算した割合。

4章

「基本施策」と「施策」
基本施策3 健やかに生きていくための身体の育成

施策

(2) 体力・運動能力の向上



現状と課題

柔軟性や筋力、持久力等の基礎的な体力は、生涯にわたって健康を保持増進することに重要な役割を果たします。また、豊かなスポーツライフを実現することで、意欲や気力が充実し生活習慣に良い影響を与えます。しかし、子どもたちが日常生活の中で体を動かすことが少なくなるとともに、体力の低下が指摘されています。そこで発達段階に応じた体力や技能を身に付けるよう授業の工夫や学校全体での体力向上に取り組んだり、継続して遊びや運動に取り組む機会を確保したりすることが必要です。

また、地域のスポーツ指導者等の協力も得て、子どもたちの体力向上に取り組むことが重要です。

主な取組

体力・運動能力の向上	全国体力・運動能力、運動習慣等調査を活用し、運動習慣の確立や生活習慣の改善を推進します。また、体力テストの結果を活用した授業の改善・充実を図るとともに、子どもたちが運動に取り組む機会を確保する等の運動の日常化の推進に努めます。
地域人材の活用	専門的な指導を充実させるため、部活動等において、地域の人材を活用します。

数値目標

成果指標	令和 元年度	令和 2年度	令和 8年度	備考
体力テストの総合評価が「A」「B」「C」 の児童生徒の割合 ^(※2)	70.9%	(※1)	75.0%	小学校
	81.4%		85.0%	中学校

※1：令和2年度（2020年度）は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、全国体力・運動能力、運動習慣等調査は中止となった。

※2：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」（スポーツ庁）における総合評価が、「A」・「B」・「C」・「D」・「E」の5段階のうち上位3段階である「A」・「B」・「C」の伊勢市の児童生徒の割合